

新技術・新工法及びリサイクル製品審査表

受 付 N o	MA221022-39		申請年月日	平成22年10月22日	
新技術名称	Gベース タイプL(防護柵用基礎ブロック)				
開発業者名	会 社 名	株式会社ホクコン			
	担当部署	中国営業部	担当者	安田美治	
	住 所	鳥取県西伯郡大山町神原113-4			
	T E L	0859-53-4511	F A X	0859-53-4701	
	E-mail	Y_Yasuda@mail.hokukon.co.jp			

概 要

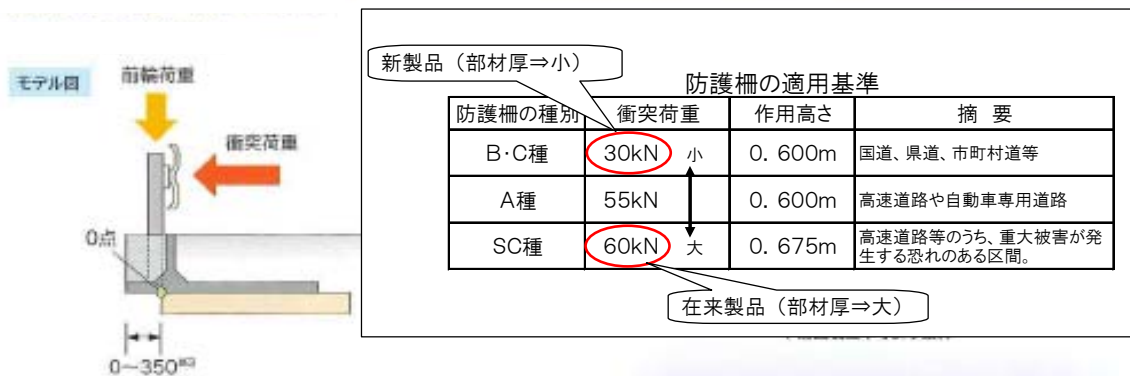
ガードレールを設置するための基礎ブロックのプレキャスト製品。

防護柵用基礎(ガードレール基礎)の構造計算では、道路種別(高速道路、国道・県道等)により車両の衝突荷重が違うなどといった設置条件に応じて、計算上必要とされる製品規格(寸法)が異なってくる。

そこで、在来製品(Gベース)においては、工場生産時における型枠の共有化を図るため、厳しい方の設置条件により構造計算したもので部材厚を統一していた(大きい方の部材厚に合わせた)。

今回の新製品(Gベース タイプL)は、これまでの施工実績から、「B・C種(国道・県道等で使用)で、盛土や擁壁直上外に設置するタイプでの専用規格」として製品開発したことで、在来のGベースと比べて、部材厚を薄くする(底版厚さ10cm→8cm)ことができ、製品重量を87%まで軽量化を行い、経済性を向上させた。

【衝突時の検討】



◎従来製品との比較

名 称	新製品	Gベース タイプL	従来型	Gベース H400×1000×2000
形 状				
	底版厚80mm		底版厚100mm	
	製品質量 715kg		製品質量 820kg	

【現地確認写真(倉吉市服部地内、県道倉吉赤崎中山線)】



機能性の向上

なし

在来工法・製品と比較した経済性

○在来製品と比べて、底版厚さ等を薄くすることでコンクリート使用量を減らしているため、材料費が安価である。
 なお、カーブ区間に設置する場合、在来製品は別途、カーブ用製品が必要となるが、新製品は、標準型でカーブ区間にも対応できるため、コストの差はさらに拡がる。

	【今回申請】 Gベース タイプL	【在来製品】 Gベース	コスト比較
直接工事費 (延長1m当たり)	18,970円	20,930円	9.4%縮減

注) 上記は直線区間の費用。

資源のリサイクル性

○コンクリートの細骨材にフェロニッケルスラグ及び廃ガラスを使用しており、リサイクル性の向上が図られる。

公共工事における汎用性

○鳥取県内において、公共事業で7件の施工実績がある。
 ○標準施工歩掛はないため、メーカー歩掛を使用することになる。

他機関等での登録

なし

特許・実用新案

なし

事前審査結果(新技術・新工法及びリサイクル製品審査基準による)

①ニーズとの適用性「B」、②技術の妥当性「A」、③実地条件下での適応性「A」
 ④活用効果の発現性「B」、⑤公共事業における汎用性「B」

事務局現地確認等

・平成23年2月17日 倉吉市服部地内の施工事例を確認(技術企画課、県建設技術センター)